

▲△▲ 中村新道～穂高の眺望を愉しむ～ ▲△▲

(報告) N

◎メンバー T、N(L)

◎期日 令和元年 9 月 19 日～20 日

中村新道を 2 人とも歩き残している。加えて中村新道がこのところ春山で歩いている長堀尾根～蝶ヶ岳の周回コースにならないかとも考える。

大滝小屋の HP に「小屋の歴史は古く、昭和 7 年頃、神谷圭子（蝶ヶ岳ヒュッテのオーナー、旧姓・中村）の祖父・喜代三郎が地元小倉村（現三郷村）の住民より譲り受け、従来的小屋の隣に平屋の建物を新築しました。」とある。オーナー家の名を負っているのであろうこの「新道」は、歴史は古いが、今では登山者は多くないようである。

秋雨前線が南北に移動する合間の好天 2 日を見つけ、歩いた。

■令和元年 9 月 19 日(木) 晴れ

前夜沢渡のライダーハウスともしび泊。これまでの駐車場での車中泊に比べて格段に贅沢した。早朝、タクシーで上高地へ。5:20 発。雲が低く、河童橋から穂高は見えない。6:53 徳沢(標高 1572m) テント 10 張。

ここからは歩き馴れた、しかし楽ではない登りである。路は濡れていない。前夜雨が降らなかったのであろう。来春の道標とすべく平地になると GPS の旗を立てた。早い下山者が興奮気味に話す眺望の素晴らしさを期待していつもより快調に歩き、10:02 長堀山(2566m)。水を満たした妖精の池を過ぎると、槍ヶ岳等が見え始める。我慢して写真を撮らずに 10:57(2677m)蝶ヶ岳。

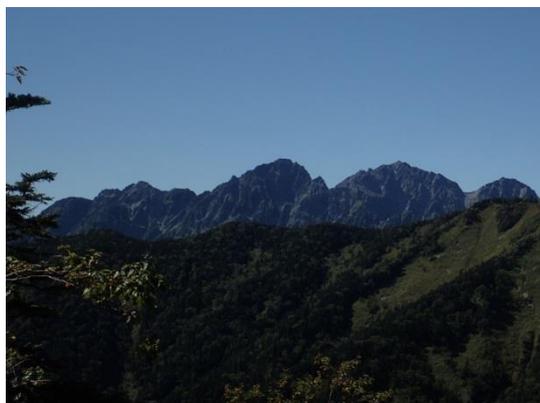
これまでになく雪化粧していないすっぴんの槍穂高が素晴らしい。



夕、そして朝のこの眺めを放棄するのはもったいないが、大滝山荘まで足を延ばすことにし、蝶ヶ岳ヒュッテにまだ開いているかどうか確認する。11:29 発。ここからは春歩けるかどうか考えながら歩く。

急坂を降り 11:41(2604m)三股への分岐 12:05(2468m)。降りきると、小さな池が 3 つ続く。槍穂はも

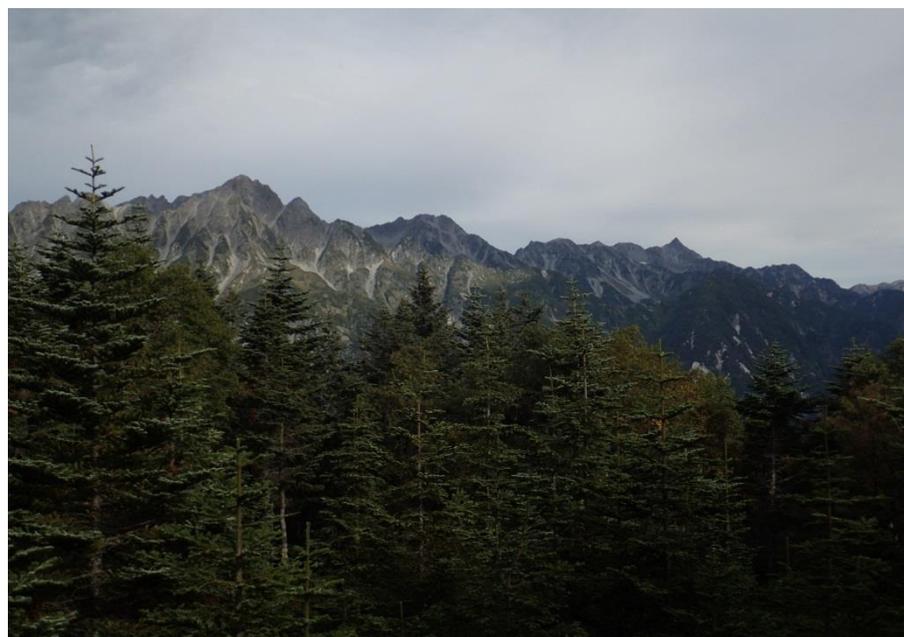
う見えないかと諦めていたが、高度を上げると見えてくる。これはうれしい。鍋冠山への下山路を分けるとすぐに 13:13(2616m)大滝山北峰。穂高を見納めて降りると、すぐに 13:16(2602)大滝山荘。山荘の前には池もある。



管理者の O さん、オーナーのご家族が暖かく迎えてくれる。お 2 人にはビールを飲みながら尋ねる私の愚問に丁寧に答えていただいた。有り難いことである。客は私たちを含め 4 人であり、明後日をもって今年の営業を終える。

■9月20日(金) 晴れ

少し寝過ごした。早朝にもかかわらず、O さんに見送られ、5:40 発。すぐに南峰 (2614.5m)。樹林帯に入り、徳本峠まで眺望は利かない。しかし粋な計らいがある。7:45 (2350m) 大滝槍見台。



(大滝槍見台から
槍ヶ岳⇒)

そして 8:51(2186m)明神見晴。この間の路は上り下りがあり、また巻き道もあり、残雪期に歩くのは私たちには無理である。長堀尾根からの周回、長堀尾根への周回のいずれも断念せざるを得ない。

しばらく歩くと 9:29(2206m)三角点、そして 9:54(2133m)。徳本峠少し上がったところから、また峠を少し降りたところから明神岳が見える。



(←明神見晴からの眺望)

(↓明神岳の眺望)



この2日間、秋晴れのもと快調に歩き、そして槍穂の眺望を愉しむことができた。満たされた気持ちで、11:28 上高地への路に降り、12:23 上高地着。

